

採用年度	平成	年度
種別	国際戦略型	

先端研究拠点事業

平成26年度 事業実績報告書（最終年度用）記入上の注意

（※本報告書は、前年度までの事業実績報告書とともに事後評価資料として使用します。

「全期間」について記入する箇所は拠点形成型の期間も含めてご記入ください）

**【提出締切】平成27年4月24日（金）メールにて**

—提出にあたっての注意事項—

提出締切日までにメールにて本会担当者宛にご提出ください。その後、本会担当者より拠点機関の担当者の方宛に記入内容についての照会等を随時行いますので、照会后1週間以内に回答・修正版等の提出をお願いします。

また、事業実績報告書の内容が確定となりましたら担当者の方にご連絡しますので、様式6「事業実績報告書の提出について」に公印を押印の上、ご提出ください。

記載内容は振興会ホームページで公開します。記載に当たっては、一般国民に理解できるよう、分かりやすい言葉を用いるように留意ください。特に、専門用語を用いる場合には、必ず解説を付してください。

採用番号	
領域	「採用番号」～「採用期間」の内容については、実施計画書1ページ・申請書に記載の内容と相違の無いように記入。
分科	
細目	
分科細目コード	
研究交流課題名（和文）	
研究交流課題名（英文）	
採用期間	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日 （ ヶ月）

《実施組織体制》

実施計画書「4. 実施体制」に記載の内容（掲載順も含め）と相違の無いように記入。

\*但し、年度中に記載内容に変更が発生した際は、反映させること。

日本側及び相手国側の「協力機関数」「参加者数」は、事業実績報告書「7. 参加者リスト」の内容と相違の無いようにすること。

\*交流相手国が複数の場合、適宜、枠を追加して記入すること。

(様式7参考)

日本側

拠点機関名	
実施組織代表者（所属・職・氏名）	
コーディネーター（所属・職・氏名）	
協力機関数	
参加者数	

相手国1

国名	
拠点機関名	
コーディネーター（所属・職・氏名）	
協力機関数	
参加者数	

※交流相手国が多数の場合、適宜、枠を追加して記入すること。

(様式7参考)

## 1. 交流目標の達成状況

目標の達成状況を、A～Eのそれぞれの観点から、ポイントを絞って記載すること。

A 学術的な成果 B 持続的な協力関係の基盤構築 C 若手研究者育成における成果  
D 国際的学術情報の収集整備 E 事業の波及効果

### 1-1 平成26年度研究交流目標の達成状況

#### ① 平成26年度事業計画における達成目標

#### ② 平成26年度事業計画の達成状況 ※成果の公表状況は、別紙1「論文リスト」にて作成のこと。

当該年度について、目標の達成(見込)状況を、A～E(A 学術的な成果、B 持続的な協力関係の基盤構築、C 若手研究者育成における成果、D 国際的学術情報の収集整備 E 事業の波及効果)のそれぞれの観点から、ポイントを絞って記載すること。

成果の公表状況は、別紙1「論文リスト」にて作成のこと。

派遣・受入等の詳細については、様式3「四半期交流状況報告書(含;四半期交流状況一覧)」にて記載されることになるため、詳細な記述は不要。

### 1-2 移行審査時の研究交流目標の達成状況

#### ① 移行審査時の研究交流目標(移行審査資料に記載した目標を転載のこと)

移行審査資料に記載した目標を転載し、その目標に対する達成度を下記から選択し、簡潔に理由を述べること。

#### ○目標に対する達成度とその理由

- 研究交流目標は十分に達成された
- 研究交流目標は概ね達成された
- 研究交流目標はある程度達成された
- 研究交流目標はほとんど達成されなかった

【理由】

(様式7参考)

## 2. 実施状況

### ① 研究交流計画実施にあたる実施体制

全期間にわたる「日本側拠点機関の実施体制(拠点機関としての役割・国内の協力機関との協力体制等)」、「相手国側拠点機関との協力体制(各国の役割分担・ネットワーク構築状況等)」、「日本側拠点機関の事務支援体制」について記入してください。

全期間にわたる全般的な実施体制について、ポイントを絞って記載すること。

<日本側拠点機関の実施体制(拠点機関としての役割・国内の協力機関との協力体制等)>

<相手国側拠点機関との協力体制(各国の役割分担・ネットワーク構築状況等)>

<日本側拠点機関の事務支援体制>

### ② 共同研究

年度当初の交流計画をふまえ、共同研究を実施するにあたっての枠組み、活動内容、得られた成果等(国内外の拠点機関・協力機関との連携状況も、考慮すること)

当該年度の状況と、全期間にわたる状況をそれぞれ記載すること。

(1) 平成26年度の状況

(2) 全期間にわたる状況

(様式7参考)

### ③セミナー

#### (1) 全期間において実施したセミナー件数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
国内開催	回	回	回	回	回
海外開催	回	回	回	回	回
合計	回	回	回	回	回

#### (2) 平成26年度セミナー実施状況

- ・研究交流計画におけるセミナーの位置づけを、他の交流形態と関連させつつ述べること
  - ・交流目標達成に向け、セミナーが果たした貢献を、具体的に述べること
- ※具体的な実施状況及び成果については、別紙2にて作成のこと

各セミナーの具体的な実施状況については、別紙2「セミナー実施状況」にて作成のこと。

### ④研究者交流

- ・研究交流計画における研究者交流の位置づけを、他の交流形態と関連させつつ述べること
- ・交流目標達成に向け、研究者交流が果たした貢献を、具体的に述べること

#### (1) 平成26年度実施状況

#### (2) 全期間にわたる実施状況概要

(様式7参考)

### 3. 研究交流活動の成果

全期間の交流を通じての成果を、「国際学術交流拠点の形成」「成果の学術的価値」及び「若手人材育成への貢献」の観点から記入してください。また、活動成果の「情報集約性」「社会貢献性」がある場合には記入してください。

全期間の交流を通じて得られた成果について、それぞれの観点から簡潔に記載すること。

#### 3-1. 国際学術交流拠点の形成

#### 3-2. 成果の学術的価値

#### 3-3. 若手人材育成への貢献

#### 3-4. 情報集約性

#### 3-5. 社会貢献性

(様式7参考)

#### 4. 経費の執行状況

##### 4-1. 平成26年度の状況

事業実施状況との関連(研究者の交流数や、セミナー等会合の開催状況などと、経費の関連を、具体的に示すこと)

事業実施状況との関連(研究者の交流数やセミナー等会合の開催状況などとの経費の関連について、具体的に記載すること。

「【参考】相手国側との経費分担の状況」については、実施計画書「8. 本年度交流人数総表」及び様式3「四半期交流状況報告書」に基づき記入すること。

#### 【参考】

相手国側との経費分担の状況(※様式3(四半期交流状況報告書)に記載の、相手国側マッチングファンドにより来日した人数についても触れること)

##### 4-2. 全期間にわたる状況

###### (1) 執行額(単位:千円)

戻入が生じた場合は、戻入後の金額を記入すること。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
国内旅費					
外国旅費					
物品費					
謝金					
その他の経費					
外国旅費・謝金 に係る消費税					
合計					

###### (2) 本事業経費による派遣/受入人数(相手国側マッチングファンドによる受入は含まない)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
派遣人数(人)					
受入人数(人)					

(様式7参考)

## 5. 全期間における問題点・反省点

(事業全体の実施体制上において、課題、問題となったものや、反省点等があれば示すこと)

事業全体の実施体制上において、5年間で発生した課題や問題点、反省点等があれば示すこと。

## 6. 今後の展望

全期間における問題点・反省点の克服や先端研究拠点事業終了後の展望を示すこと。



## 7. 参加者リスト

参加者リストの整理番号(表内左端の「No.」)は、採用期間を通して研究者一人につき一つの番号を使用します。

本事業に参加した研究者を全て記入してください。

漢字表記、スペル、LAST NAME/first nameの大文字・小文字の別・順序、スペース等、記入方法を統一してください。(今年度中に提出いただく他の計画書・報告書等の参加者との照らし合わせにも使用します。)

### 参加者リストの記入例

#### 7-1 日本側参加者リスト

△名 (削除人数)

○名

合計人数

参加者リストでの「合計人数」「削除人数」は自動計算されます。

No.	氏名	氏名カナ		所属(機関・部局名)	職名	専門	区分	承認年度	備考
		姓	名						
1							拠点機関	H24	
2							協力機関	H24	H24.9 削除
3							協力研究者	H25	H25.10 追加
4							拠点機関	H26	H26.10 追加

No.1には、本課題のコーディネーターについて記入する。途中参加者を記載する場合は、リスト全体の最後尾に加える。

日本側参加者に登録される外国人研究者及び外国人学生については、「氏名」欄には英語表記で記入し、「氏名カナ」欄は空白とする。

「区分」欄では、プルダウンメニューより「拠点機関」「協力機関」「協力研究者」のいずれかを選択する。

追加または削除となった年月を記入してください。

#### [7-2 ~ 相手国側参加者リストについて]

このリストは、交流相手国ごとに作成してください。(研究者のNationalityではありませんので注意してください。)

### 参加者リストの記入例

#### 7-2 相手国側参加者リスト (○○)

△名 (削除人数)

○名

合計人数

No.	国名	氏名	所属(機関・部局名)	職名	専門	区分	備考
1				( )内には、相手国名を記入。 ※拠点国ごとに別業とすること。		拠点機関	
2						協力機関	H24.9 削除
3						協力研究者	H25.10 追加
4						拠点機関	H26.10 追加

(様式7参考)

## 別紙1「論文リスト」

- ・この交流の成果であり、全期間を通じて発表された**本事業名が明記されているもの**のみを記載してください。
- ・コーディネーター・参加研究者の氏名にはアンダーラインを付してください。
- ・相手国の参加研究者との共著論文には、**文頭の番号に○印を付し**、相手国名を記入してください。
- ・査読がある場合、「査読」欄の有無を選択してください。
- ・必要に応じて行を追加してください。

(記載例)

(1) 学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文又は著書			
・査読がある場合、印刷済み及び採録決定済のものに限り、査読中・投稿中のものは除く。また「査読」欄は有無を選択してください。			
整理番号	著者名、発表論文名、学会誌名、発表年月巻号等	査読	相手国名 (共著の場合)
①	学振 太郎, 学振 次郎, <u>S. Gakushin</u> , OO OO, "□□□□□□□□ □□□□□□", <b>△△△△.103</b> , 2302-2310, (2013.10)	有	中国
2	学振 花子, 学振 一郎, <u>C. Gakushin</u> , OO OO, "□□□□□□□□ □□□□□□", <b>△△△△.201</b> , 1406-1421, (2013.12)	有	

(2) 国際会議における発表			
・著者名(参加研究者を含む全員の氏名を、論文等と同一の順番で記載すること)、発表題名、発表した学会名、開催場所、論文等の番号、発表年月日等を記載すること。発表者に○印を付すこと。			
・査読がある場合、有無を選択してください。			
整理番号	著者名、発表題名、学会名、開催場所、口頭・ポスター等の形式、論文等の番号、発表年月日等	査読	相手国名 (共同発表の場合)
①	○学振 太郎, 学振 次郎, <u>S. Gakushin</u> , OO OO, "□□□□□□□□ □□□□□□", <b>△△△△.103(口頭発表)</b> , (2013.8.25)		中国
2	○学振 花子, 学振 一郎, <u>C. Gakushin</u> , OO OO, "□□□□□□□□ □□□□□□", <b>△△△△.201(口頭発表)</b> , (2013.11.10)	有	

### (3) 国内学会・シンポジウム等における発表

・(2)と同様に記載すること

整理番号	著者名、発表題名、学会名、開催場所、口頭・ポスター等の形式、論文等の番号、発表年月日等	査読	相手国名 (共同発表の場合)
1	○学振 太郎, 学振 次郎, <u>S. Gakushin</u> , OO OO, "□□□□□□□□ □□□□□□", <b>△△△△.103(ポスター発表)</b> , (2013.11.15)	有	
2	○学振 花子, 学振 一郎, <u>C. Gakushin</u> , OO OO, "□□□□□□□□ □□□□□□", <b>△△△△.201(口頭発表)</b> , (2014.1.10)		

(様式7参考)

## 別紙2「セミナー実施状況」

経費相互負担の原則に基づき、相手国が開催するセミナーに係る開催経費は、原則として自己資金（マッチングファンド）により開催国が負担するものとします。

### 参加者数の記入例（交流相手国（米国）開催の場合）

参加者数	本事業参加者 （参加者リスト の研究者等）	日本	12	人
		（米）国	5	人
		（フランス）国	3	人
		（ ）国		人
	一般参加者 （参加者リスト 以外の研究者 等）	日本	2	人
		（米）国	15	人
		（ ）国		人
		（ ）国		人
	合計		37	人

参加者リストにない、一般参加者は、「一般参加者（参加者リスト以外の研究者等）」に記入ください。

#### －開催経費の分担内容の記入にあたっての注意事項－

セミナー開催に係る各国拠点機関の費用負担を記入ください。

（相手国拠点については内容のみの記載でかまいません）

実施計画書「10. セミナー開催予定」における「開催経費の分担内容」に対応して記載ください。

### 開催経費の分担内容の記入例（交流相手国（米国）開催の場合）

開催経費の 分担内容	国名	内容	負担額	
	日本	外国旅費	2,500,000	円
	フラン ス	外国旅費		円
	米国	国内旅費		円
	米国	会議費		円
	米国	その他（物品費等）		円
	計		2,500,000	円

## 別紙3「Research Report」

#### －作成にあたっての注意事項－

- ・和文「事業実績報告書」の内容をもとに、英文版を作成。
- ・「Matching Fund」欄には、マッチングファンド名を記入。
- ・なお、本「Research Report」は、先端研究拠点事業 英語版HPに掲載されます。